

国語科三年 五月 課題冊子

計画的に
取り組むべし！



組 番 名前

— 目次 —

ページ

日付

1 表紙

2～4 春に 5/ 5/ 5/

5 握手 5/

6 漢文 5/

7 熟語の読み方 5/

8～11 文法 付属語 5/ 5/

(助詞・助動詞)

* できそうなところから始めていこう！ 1単元を一日で終わらせる必要はないので、数日かかったら自分で日付を加えて記録しよう。

* 文法のプリントに時々出てくる にはどんな語句が入るか、考えて書き入れてみよう。

春に ① ～詩の基本について～ 確認プリント

〈詩の種類〉 便覧を見て確認しよう。

文体

- ① () 詩 … 古文の言葉で書かれた詩。
- ② () 詩 … 現代語の文体で書かれた詩。

形式

- ① () 詩 … 音数に決まりがある詩。
- ② () 詩 … 音数や行数に決まりがない詩。
- ③ () 詩 … 普通の文章の文体で書かれた詩。

☆問題で、詩の形式を聞かれることがよくあります。

その時は文体と形式を組み合わせて答えることが多いです。

【例】

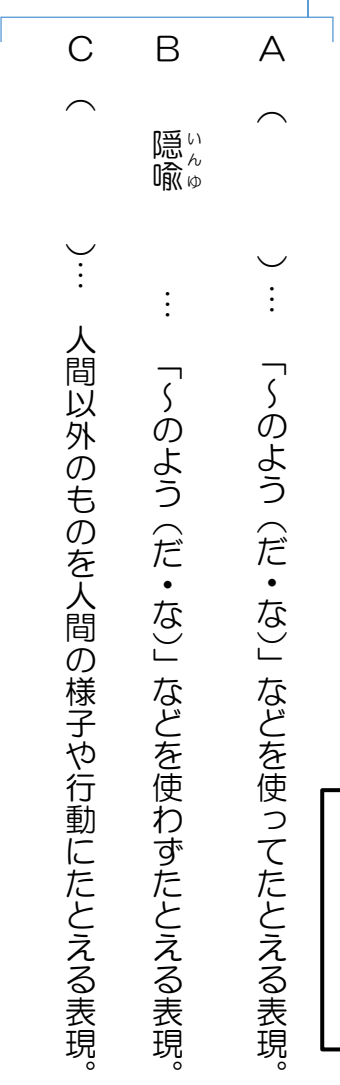
- ・ 文語で書かれ、音数に決まるがある詩 … 文語定型詩
- ・ 口語で書かれ、音数に決まりがない詩 … 口語自由詩 などなど…。

現代詩は「口語自由詩」が多いです！

〈表現技法〉 詩に用いられることが多いです。

- ① () 法 … 同じ語句を何度も繰り返して印象づける方法。
- ② () 法 … 語句の順序を入れ替えて、印象を強める方法。
- ③ () 法 … 言葉を省いて、余韻よゐんをもたせる方法。
- ④ () … 文末を名詞で終わらせ、余韻をもたせる方法。
- ⑤ 対句ついき … 対になる語句を並べて対応させる方法。

☆対句は漢詩でも用いられていました！
- ⑥ 比喩法ひゆ



春に 谷川俊太郎

この気もちはなんだろう

目に見えないエネルギーの流れが

大地からあじのうらさを伝わって

ぼくの腹へ胸へそっついでのごとく

声にならないうさげびとなってこみあげゆる

この気もちをなんだろう

枝の先のふくらんだ新芽が心をうつし

ゆるこびだ しかしかなじみでもあめゆる

いらだちだ しかもやすらぎがあめゆる

あこがれだ そしていかりがかくねてこみゆる

心のダムにせきとめられ

よごみ渦まきせめきあひ

いまあふれようとするめ

この気もちをなんだろう

あめ空のあめ青に手をひたしたい

まだ会ったことのないすべての人と

会ってみたい話してみたい

あしたとあむつがー一歩をへんやうに

ぼくはまひかっこ

地平線のかなたへと歩きつづけたい

そのくせいの草の上でじゅっじゅつとごたご

大声でだれかを呼びたい

そのくせいじりで黙っていたい

この気もちをなんだろう

〈詩を読んでも、自分の考えをまとめてみる〉

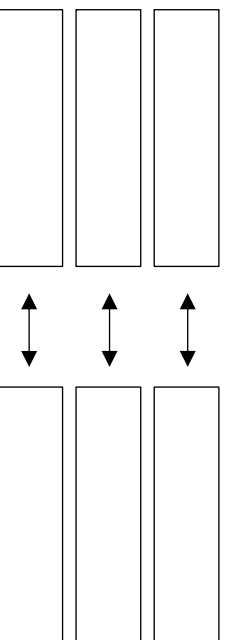
○ あなたが「春」を感じるのはどんな時ですか。

○ 「春」といえば、どんなイメージですか。

自由に書き出してみましょう。

○ 詩中に出てくる、作者の感情を捉え、自分が出ている「春」をまとめてみましょう。

・**作者の気持ち** (六つ書き抜いてみましょう)



・**正反対の気持ち**が混ざり合っている場合は…

・**自分の気持ち**

「春」といえば、どんな気持ちになりますか…
 テキストの「春」のイメージを、自分の気持ちと比べてみるのか、理由も考えながらまとめてみましょう。

* 作者の共通部分と、自分の共通部分とを比べてみる。違いをまとめてみる。

〈詩を読み解き、味わおう〉

- この詩の形式を漢字五字で答えなれ。

--	--	--	--	--

- 「新しいならなごむけび」の元となつてゐるものは何ですか。詩中から十一字で書かばきなれ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

- 「新芽が心をしつへ」の説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、○で囲みなれ。

- ア 新芽のよむけむかやかな感情が「あへ」の心を満たしてゐる。
- イ 「新年」を迎えられた喜びが「あへ」の心を引き締めしてゐる。
- ウ 何かが始まる「春の訪れ」が「あへ」の心を刺激してゐる。
- エ 何とも言えない複雑な思想が「あへ」の心を悲しませてゐる。

- 「心のタム」とういふ比喩の表現は、このよむな様子を表してゐると思はれますか。想像して、「様子」のしながを一文で答えなれ。

様子。

- 詩の最後の五行を、次の表にまとめるため、ア・イに入る言葉を詩中から書き抜きなれ。

「積極性」を感じる表現	↑ ↓	ア
歩きのしげさ	↑ ↓	
イ	↑ ↓	ひびく黙つたさ

- 「この気持ちをはなさるう」とういふ疑問句について、「あへ」の気持ちを十五～二十字で答えなれ。ただし、「未知」とういふ語句を用いて「気持ち」のしながを一文で答えなれ。

--	--	--	--	--	--	--	--

気持ち。

○ 次の語句の意味を調べよう。複数の意味がある場合は、教科書本文での用法を書こう。

語句	意味
① 達者	
② 年季が入る	
③ 気前がいい	
④ 無邪気	
⑤ 代物	
⑥ 精を出す	
⑦ 奇妙	
⑧ 開墾	
⑨ 傲慢	
⑩ せわしい	
⑪ こだえる	
⑫ 地道	
⑬ いらぬいらぬ	
⑭ 平凡	
⑮ 腕前	
⑯ むやみに	

○ 初読の感想を書こう。

(気になった場面、行動、印象に残った場面、疑問などいろいろ書いてみよう)

漢文

復習編

*便覧 P210
くを見ながら取り組もう!

◎漢文の基本

① 1次の () にあてはまる言葉を答えなさい。

① () ……漢字のみで書かれた原文。

国破山河在

② () ……① に日本語の文章として読めるよう、訓点をつけた文。

国破山河在

③ () ……② の訓点に従って並べ、書き改めた文。

国破れて山河在り

◎返り点について

○レ点…一字下から返って読む。

② ①

○一二点…二字以上を返って読む。(一から二にワープする!)

③ ① ②

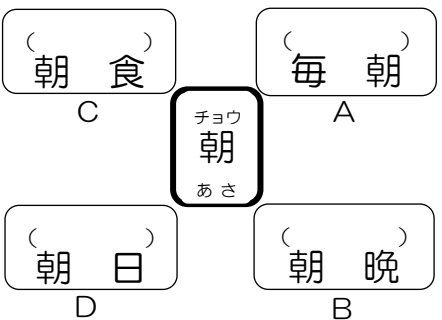
② 2次の □ に、読む順番を書きこみなさい。

ア	□	レ	□	レ	□	イ	□	レ	□	レ	□	ウ	□	レ	□	□	レ	□
エ	□	レ	□	ニ	□	オ	□	レ	□	ニ	□	□	レ	□	□	□	レ	□

③ 3次の文を③の文にしなさい。

ア	深	林	人	不	知	↓	()
イ	低	頭	思	故	郷	↓	()
ウ	従	心	所	欲		↓	()

○ 漢字には音読みと訓読みがある。次の熟語A～Dの音読みをカタカナ、訓読みをひらがなで答え、読み分けができているか確認しよう。



＜重箱読みと湯桶読み＞

多くの熟語は、上の漢字が音読みなら下の漢字も音読みになり、上の漢字が訓読みなら下の漢字も訓読みになる。

しかし、上下の漢字を、音と訓で組み合わせて読む熟語もある。

「重箱」は「重」を音、「箱」を訓で読む。このように「音訓」の順で読むことを「重箱読み」という。

また、「湯桶」は「湯」を訓、「桶」を音で読む。このように「訓音」の順で読むことを「湯桶読み」という。

＜特別な読み方＞

熟字訓

熟語の中には、漢字一字ごとに読むのではなく、「**一つのまとまり**」として特別な読み方をするものがある。これを「熟字訓」という。

【例】 明日(あす・あした) … 「明」だけで「あ」、「日」だけで「す」とは読まず、

「明日」の組み合わせで初めて「あす」「あした」と読む。

＜問＞ 次の熟語①～⑳を読みよう。また、重箱読みならA、湯桶読みならB、音音ならC、訓訓ならD、熟字訓ならEを選び、記号で答えよう。

- | | | | | | | | | | |
|---|----|-----|-----|-----|---|----|-----|-----|-----|
| ① | 吹雪 | 読み | () | () | ⑪ | 両脇 | 読み | () | () |
| ② | 繭玉 | () | () | () | ⑫ | 浅瀬 | () | () | () |
| ③ | 干潟 | () | () | () | ⑬ | 手本 | () | () | () |
| ④ | 錠前 | () | () | () | ⑭ | 着物 | () | () | () |
| ⑤ | 足袋 | () | () | () | ⑮ | 荷物 | () | () | () |
| ⑥ | 茶釜 | () | () | () | ⑯ | 着陸 | () | () | () |
| ⑦ | 哲学 | () | () | () | ⑰ | 枠内 | () | () | () |
| ⑧ | 錦絵 | () | () | () | ⑱ | 謁見 | () | () | () |
| ⑨ | 田舎 | () | () | () | ⑲ | 仕事 | () | () | () |
| ⑩ | 純粹 | () | () | () | ⑳ | 相撲 | () | () | () |

〈助詞〉

付属語で活用しない。助詞は、働きの違いによって四種類に分けられる。「格助詞」「副助詞」「接続助詞」「終助詞」の区別がつけられるようにしよう。

*例 (縦線が単語、横線が文節で区切られている)

格助詞	接続助詞	副助詞	終助詞
雨	が	降れば	試験は
			延期
			さ。

○助詞の種類について。それぞれの役割を覚えよう。

〈格助詞〉 主に体言につく。(体言＝だったか覚えているかな?)

「を」「に」「が」「を」「と」「より」「から」「の」「へ」「や」「の」十個。

「鬼 が 戸より出、空 の 部屋。」と覚えてみよう!

*例 犬が走る。「が」は「犬」(体言)についているので、**が**＝格助詞

〈副助詞〉 いろいろな語につく。体言につく場合、格助詞以外であれば副助詞。

*例 犬は走る。「は」は「犬」(体言)についているが、「鬼が戸より出」以外なので、**は**＝副助詞

〈接続助詞〉 主に活用する語につく。(用言や助動詞。用言と呼ばれる品詞は三つ。何だ?)

用言＝・・。

*例 暑いが走る。格助詞と見分けにくい「が」。ここでは「暑い」(用言)についている。そのため、ここでは **が**＝接続助詞

〈終助詞〉 文末、または文節の終わりにつく。疑問・感動・禁止などの意味を加える。

*例 少年**よ**、大志を抱け。意味が区切れているのがポイント。**よ**＝終助詞

「**よ**」は「呼びかけ」の意味をつけている。

〈助詞 問題〉

冊子P8を見ながらでも良いので、問題に取り組もう！

○ 次の各文の傍線の助詞の種類をア～エから選び、記号で答えなさい。

- 1 彼こそ選手にふさわしい。
- 2 今までよくいったのが。
- 3 悔しいけれども完敗だ。
- 4 「がんばるぞ」と叫ぶ。
- 5 廊下を走らない。
- 6 きこをとって山を歩む。
- 7 画家になるため勉強する。
- 8 これがミシシッピ川だ。
- 9 約束を忘れないでね。
- 10 広島まで新幹線で行く。

ア	格助詞	イ	副助詞	ウ	接続助詞	エ	終助詞
---	-----	---	-----	---	------	---	-----

○ 次の各文の傍線は助詞の種類が異なります。それぞれの助詞の種類を、右のア～エから選び、記号で答えなさい。

- 1 a ネコが好きだ。
b 熱いが飲める。
- 2 a 歌うと楽しい。
b すてきだと思ふ。
- 3 a 静かだから眠い。
b 今日から始める。
- 4 a もう遅いぞ。
b 急ぎ馬がこるぞ。

* 「」がつけられると引用の役割となり、格助詞になる！
それぞれ見分けられたかな？慣れているように！

○ 次の各文の傍線と同じ使われ方をしているものをア～ウから選び、○で囲みなさい。

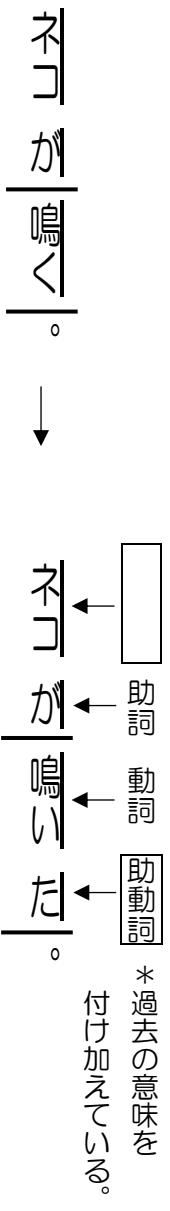
- 1 空に虹がかかる。
ア 道をきれいに掃除する。
- イ テストは五時に終わる。
- ウ やっと生徒会長になった。

- 2 祖母の育てた野菜だ。
ア 象はなぜ鼻が長いのか。
- イ 冬の夜空は星がよみ見える。
- ウ 兄の書く本は難しい。

この他にも助詞はたくさん！
便覧を見て、どんな意味、
どんな役割があるのかを
しっかり確認してみよう！

〈助動詞〉 付属語で活用する。主に用言のしうへ。いろいろな意味を付け加える役割。

*例 (縦線が単語、横線が文節で区切られている)



○助動詞の種類について

「助動詞」の種類は多いため、ここでは「ぬる・らぬる」と「た」について確認しよう。
 へれる・られる < 四つの意味がある。

- ① 受け身… 弟に見られる。 他から動作を受ける
- ② 自発… 昔が思い出される。 自然にそうなる
- ③ 可能… これは答えられる。 「〜できる」の意味が加わる
- ④ 尊敬… 校長先生が話される。 相手を敬う言い方

*「食べれる」「は」 「食べれる」「は」は「ひ抜き言葉」と言って、文法上は間違っている。話し言葉・会話で「これ食べれる!」「と使ったことがある人もいるのでは?」作文でミスが多いので気をつけよう。

へた < 四つの意味がある。「過去」だけではないのだ!
 全部「た」だけど、意味の区別ができるようにしっかりと覚えよう。

- ① 過去 … 昨日はケーキを食べた。 「昨日」「去年」など、時間軸を表す語があれば必ず「過去」。なかつたら文脈で判断!
- ② 完了 … 今、東京に着いた。 「たった今」「ちやうど」「がつくものが多い。現在も続いている状態。」〜ている「進行形!」
- ③ 存続 … 壁に絵をかけた。 現在も続いている状態。「〜ている」進行形!
- ④ 想起 … 今日提出の宿題あった? 思い出したり、確認したりする意味。

*「た」と「だ」 「読む」に過去の意味を加えると、「読んだ」「た」「だ」になることがある。助動詞は断定の「だ」もあるのよ、区別できるようにしよう!
 これから慣れよう! 「た」の四種類を識別!

〈助動詞 問題〉

悩んだり、冊子^{P10}や便覧を見ながら問題に取り組もう！

○ 次の各語1～8の助動詞の部分に、線を引きなさい。

*「れる・られる」た「以外ありません。」

例 書いた

- | | | | |
|---------|---------|--------|--------|
| 1 混んだ | 2 降りそぐだ | 3 怒らない | 4 話したい |
| 5 知りたがる | 6 連絡しよう | 7 生徒です | 8 行へまい |

まずもとの形を考えながら、単語切りを試みよう。

○ 次の各文の傍線「れる」「が助動詞なららる、そらでなければらる」で答えなさい。

- | | |
|-----------------|---------------|
| 1 ぶんせいの家がこのびれる。 | 2 風で木の枝が折れる。 |
| 3 指揮は鈴木先生がとられる。 | 4 傘をみせば行かれる。 |
| 5 兄の誕生日会が開かれる。 | 6 やる気が満ちあられる。 |

○ 次の各文の助動詞「た」「だ」「の」の意味をア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | |
|--------------|-------------|
| 1 じわが雨に降らむ。 | 2 行く末が案じらむ。 |
| 3 なんでも食べらむ。 | 4 父にほめらむ。 |
| 5 夏の気配が感じらむ。 | 6 先生が出席せむ。 |

ア	受け身	イ	自発	ウ	可能	エ	尊敬
---	-----	---	----	---	----	---	----

○ 次の各文の助動詞「た」「だ」「の」の意味をア～エから選び、記号で答えなさい。

- | | |
|----------------|----------------|
| 1 休日に友達と会った。 | 2 眼鏡をかけた人が父だ。 |
| 3 明日は晴れだったよね。 | 4 子供のころ絵本を読んだ。 |
| 5 掃除が終わったところだ。 | 6 並べたい所に座る。 |

ア	過去	イ	完了	ウ	存続	エ	想起
---	----	---	----	---	----	---	----